小

峰

三千

莮

君

作 作 詇 Ш

浅緑とり 雪ぱが 生ぃ 命ぉ 0 の なる若草の 野の 争り う闘ない 関い 辺に萠え出でし れ Ü ح

我等が胸に溢るなり 若き力のよろこびは 伸展ゆく生命思ふときのび

声を聞きつつ逍遙

今は小暗 うつろひやすき若き日を 黒百合咲けど春 き木 一下闇 Ü づ

悲哀誘ふ郭公のかなしみさそ

生の夢となすなか へば 'n

今うすれ の跡を ぞ馳 心する北 の夕まぐれ ゆく赤陽に 北欧州

牧場ば げ いば 高^{たか} に虫むし の音も淡く L o 秋の空

音も淋

しく行く橇

0

吹ふ

吹く 風膚に ^{かぜはだ}

しみ

Ŧi.

寒月高く

大雪原に消ゆるときだいせつげん。き

哀ゥ 愁ぃ

をこ

むる若人の 冴ゆる夜半

ゟ

瞑想ぞ如何に深からん

雄ラこん 崇き 肥の馬ば 阿原頭 デの 気き はあふれつ E 嘶きて

生くる喜悦謳ふ哉 理想を胸にして つ

匹

寂哉 曠野 眺が Ó く暮るる手稲山 に凋落の秋更け はてなき石 狩り 0 Ć

自然の教訓の野北州 精ご神る 尚き生命に生きなんとたかいのち を磨く友どちよ の教訓学びつつ の を 秋

先人建てし自治寮のせんじんた き歴史伝へかし